

志賀町立志賀中学校 迷惑アンケート実施結果

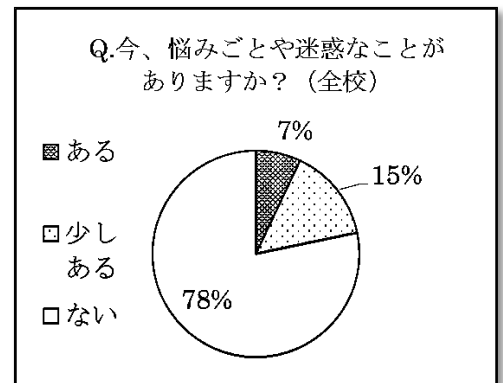
(H28.9.20 実施)

志賀町立志賀中学校 生徒指導部

志賀中学校では、全校生徒に対し、迷惑アンケートを実施し、悩みごとや迷惑に感じることで、詳しく書き込まれた内容について集計し、学級あるいは学年単位で対応を行った。以下はその集計結果である。

➤ 悩みごとの有無について

全校での集計結果は左のグラフの通りである。学年で比較すると、1・3年生より2年生の「悩み事がある・少しある」の割合は多くなっていた。これは、2学期になって2年生の一人一人に責任感が芽生え、現実とのギャップで悩みがあることが原因として挙げられる。それぞれの悩みに対しては、教師が関わって時間をかけ、生徒が経験しながら成長することに期待したい。



➤ 悩みごとの内容について

1年生は、友人関係や部活動についての悩みごとがほとんどで、進路に関する悩みごとはなかった。

逆に、3年生は部活動に関する悩みがない代わりに、勉強や進路に関する悩みごとが多くなっていた。これらは、各学年の生徒の発達段階と照らし合わせると、当然とも言える結果である。

ただ、2年生は、悩みごとの内容が多岐にわたっている。これは、成長していく過程の中で、学習面では少しずつ進路のことを考える時期にさしかかっていることと、生活面では部活動のリーダー的存在になっていることで、人間関係も含めて悩みごとを今までより強く感じられるようになった証ではないかと考えられる。いずれにせよ、生徒の悩みごとが多いという事実を受け止めて、教職員は対応する必要がある。

➤ 悩みごとを相談する相手について

1年生は、相談相手に家族を多く挙げている。学校としてもできる限りの取り組みを行うが、生徒のよりよい成長に向けて自己解決能力の向上をはかるためにも、各家庭で多くの会話をしていただけるような発信を学校からしていく必要がある。

2年生は、相談相手も多岐にわたっていた。これは、学校生活に慣れ、様々な人とコミュニケーションがとれるようになったことで、相談相手の選択肢が増えたのだと前向きにとらえたい。教職員が連携を深めることで悩みごとを少しでも減らせるように努めたい。

3年生は、他の学年と比べて、相談相手が少なかった。これは、心身ともに成長し、自分なりの解決方法を見つけ出しているのだと考えられる。教職員としては、生徒を見守りながら、個々にあった対応をしていく必要がある。

➤ 迷惑アンケート全体の総括

アンケートに記入してくれた生徒に関しては、学年主任を中心にチームを組んで、その解決に向けて対応している。記入がなかった生徒や「悩み事がない」と回答した生徒に関しては、デイリーライフや普段の会話を通してアンケートに書けない悩みを持つ生徒の声を聞くことで、表面化していない問題を察知していく。どの生徒の問題に関しても教職員の連携を密にして、生徒の様々な表情や言動から情報を察知して、より連携を深めて早期発見・対応・解決していくよう努めたい。

また、アンケートの詳しい記入内容からは、人間関係のトラブルが多く見られた。原因の一つとして、生活習慣の乱れ（寝不足や食生活の乱れ）から生徒に疲れが生じ、イライラがつのって些細な言葉の行き違いが問題を生んでいることが考えられる。このことを放置していれば、「いじめ」に繋がりがかねない。授業や日常生活、部活動などにおいて教師が生徒の言動を敏感に察知していく必要がある。日常生活の改善により、落ち着いた考えや適切な判断ができるようになるまで、保護者とも協力しながら啓発をしていきたい。